

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	イベント・メディア業界研究3	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	全コース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	内容に応じて資料を配布する。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	樽林 史章	実務経験の有無・職種	無		
<b>学習目的</b>					
日本の音楽シーンを中心に、流行音楽の流行り、廃り、を知るとともに、その音楽シーンが出来上がっていった社会状況を学びます。世界状況や経済状況の中から、どんな音楽が生まれ、育ち、売れて行ったか。なぜその音楽は売れ、人々はその音楽を必要としたのかを社会情勢を通して学びます。また、アーティスト自身が発信したいもの、伝えたいことは何であるかを直接知ることにより、発信者と消費者との関係を知り、流行った理由、廃れた理由を学びます。					
<b>到達目標</b>					
音楽業界で働く物として不可欠な音楽知識を身に付け、音楽シーンの歴史・多彩なアーティストへの理解力を高めることが出来る。また、音楽産業を通して日本の経済状況や、世界からどんな影響を受けて来たのかを、音楽業界だけでなく、社会全体の動きとして学ぶことが出来る。アーティストインタビューなどを通して、発信者や制作者の本当の意図を知り、伝え手として、どう伝えるべきなのか、社会へ出すタイミングやその手法なども学ぶことが出来る。					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	この授業では、パワーポイントを使用し、授業を進める。また、ジャパンミュージックネットワーク株式会社の発行するwebマガジン、MUSIC UP'sの記事を使用し、実際に行われたアーティストへのインタビュー記事を基に楽曲制作の意図などを解説を交えて理解を目指す。制作意図の中からきっかけとなった社会情勢などを垣間見て、同じような社会情勢での生まれた楽曲などを理解する。				
注意点	この授業では、楽曲を製作したアーティストがどういった状況下の中で作られたものなのかを理解し、発表される楽曲から社会状況を知ることが重視する。また私語や受講態度には厳しく対応する。開始時、終了時の挨拶をしっかりと行い、受講姿勢がクラス全体で出来上がった状態で講義を開始する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することが出来ない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	定期試験・提出課題によって評価		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
平常点	0%				
<b>授業計画 (1回～15回)</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	J-POPとは	日本の音楽シーンの発祥から現在までを知ります			
2回	歌謡曲からGSブームへ1	歌謡曲の成長からグループサウンドブームへの意向とその社会背景を把握します			
3回	歌謡曲からGSブームへ2	歌謡曲の成長からグループサウンドブームへ。人々が音楽に求めたものを理解します			
4回	GSブームとフォークソング1	グループサウンドとフォークソング、二極化した日本の音楽シーンを把握します			
5回	GSブームとフォークソング2	フォークソングブーム。その時日本の抱えて問題とは。若者が指示したことを理解します			
6回	ニューミュージックとシティポップ1	ニューミュージックの誕生と社会・経済状況を把握します			
7回	ニューミュージックとシティポップ2	経済と共に成長したニューミュージック。日本の音楽ビジネス業界の成長を理解します			
8回	アイドル誕生	何故、アイドルが産まれたの。人々を魅了した理由を把握します			
9回	アイドル変遷1	日本の音楽シーンが仕掛けたアイドル産業とは。次々と変わるアイドル像と社会を理解します			
10回	日本ロックの誕生	日本のロックシーンの誕生は世界の何から影響を受けたのかを把握します			
11回	日本ロックの成長	世界・日本経済が与えた日本ロックシーンの成長。社会背景を理解します			
12回	日本ロックの変遷	近年の日本ロックシーンをけん引、影響を与えたもの。日本におけるロックのあり方を理解します			
13回	前期試験対策	これまでの講義内容を振り返り、重要カ所の理解と共にテスト対策			
14回	インディーズブーム	日本のインディーズブームを成長させた若者カルチャー。雑誌「宝島」の時代を理解します			
15回	ヒップホップ到来	日本におけるラップ2大流派を把握します			